

第 41 年度 (2025 年度) ソフトウェア品質管理研究会 分科会紹介

「テストの悩み、一緒に解決しましょう！」

「ソフトウェアテストについて悩んでいませんか？」

このように聞かれて大きく頷いている人は、テストについて常日頃から真剣に考えている人だと思います。逆に、あまり悩んでいない人もいるでしょう。この質問が漠然とした抽象的なものなので、悩みが具体的に想像しにくいからかもしれません。しかし、悩んでいないということは現状に満足しているのでしょうか？

では、質問を「ソフトウェアテストで大変だと思うことはどんなことですか？」に変えてみましょう。すると、おそらく多くの人があれやこれやと列挙すると思います。大変なことはたくさんあるのに悩んでいない（すぐには想像つかない）ということは、その現状に満足しているのではなく、慣れてしまっている、無意識に目を背けてしまっている、ということかもしれません。

ここでドキッとしたあなたは、自身の（自社の）テスト環境について見つめ直すチャンスです。「テストのことはよく分からない」という人は、テストについて理解するチャンスです。これを機にテストのことを考え、抱えている悩みを把握しましょう。

悩みを理解し、解決すべき課題が明確になると、

「（これを解決することで）実は今よりもっと良いテストが自分たちにもできるのでは？」と気づくことができるでしょう。実は、この気づきがとても重要です。そして、自分だけでなく周りの一人ひとりが連鎖的に気づいていくことで現場の、延いては会社全体が抱える悩みや課題のブレイクスルーに繋がるかもしれません。

この気づきを見出す場としてあるのが、私たちの SQiP 研究会、研究コース 3「ソフトウェアテスト」です。

本コースは、ソフトウェア工学の知見を活かした講義を通しながら、ソフトウェアテストについての技法やノウハウについて 1 年間研鑽・研究していくコースです。今回からの新たな試みとして、「研究グループ」と「演習（研鑽）グループ」を併設する予定です。

研究グループとは、従来同様、テスト技法に関する講義からスタートし、各研究員が持ち寄った自分たちのテストに関する悩みや課題を持ち寄り、その解決策などについて研究し、最終的に論文にまとめ上げるグループです。一方、演習（研鑽）グループは、同じくテスト技法に関する講義からスタートしますが、さらに演習などを交えながらテスト技法の研鑽を行っていくグループです。どの時点でどのグループに分かれるかはまだ検討中です。

本コースの研究員として例年、テストの部署に配属されて間もない若手の方々が主に参加されており、ときには自己研鑽のためテスト技術を一から学び直したいベテランの方も参加されています。

研究の成果は、論文として形に残しつつ、各研究員の所属先に持ち帰り、課題解決に役立てていただいております。また、これらの活動により、各研究員のテストの現場を改善する基礎力や課題解決能力の向上を目指します。

さあ、私たちと一緒にテストの悩みを解決してみませんか？

研究コース3 主査 喜多 義弘

【研究コース3】ソフトウェアテスト

主 査：喜多 義弘 氏（長崎県立大学）

副主査：秋山 浩一 氏（株式会社日本ウィルテックソリューション）

アドバイザー：西田 尚弘 氏（株式会社日新システムズ）